

つながった

連休前と連休中にうれしいことがありました。

自主的研修会が発足しました。

一つは、能登地区で特別支援教育に関わる学習会です。

困っていることや相談したいことを参加者が共有し、解決のヒントを見いだすことを目的とする会で、いずれは事例検討会を目指すものです。

二つめは、金沢地区で、若手の中学校理科教員が集まって、共通のテーマを設定して研究を進める会です。授業実践を研究のステージとしています。

両方の研究会は、私が教育センター勤務時に行っていた理科サークルに参加してくれていたメンバーによるものです。

自分が若い頃も、先輩諸氏による理科サークルで多くのことを教えていただきました。今の自分があるのもこのようなサークル活動であったといっても過言では無いと考えています。

近年、特に中学校のこれらサークル活動は破綻状態でした。原因は忙しさです。

教育センター時代、若手教員が多い今日こそ、何とかして若手の悩みや問題意識を解決する場を設定したいと考えました。

月1回を基本に、部活動が比較的休みである日曜日午後に教育センターを会場に行いました。また、夜はいつでも相談にのるようにしました。

現在、教育センターを離れたため、このサークルもお世話できなくなりました。

しかし、今年度に入ってこれら2つの活動が始まったことを聞き、うれしく、心強く思いました。

今後とも、可能な限り支援できたらと考えています。

本県の教育施策でも、若手育成の校内研修の充実が始まっています。

やはり、先生方が自分で見いだした課題を自分たちで議論し、解決する手法が一番力がつくものです。

子供たちの学びと同じです。

ぜひ、これらサークル活動が続き、良い授業を行うことにつながって欲しいことと、一緒に学んだ友人との絆を長く持ち続けて欲しいと思います。

よい研究ができますように。